

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「迅速・正確・気配りをモットーに自分や家族が利用したいと思える福祉サービスを提供する。」「入居者様一人ひとりが主役です。」という理念をもって支えている。10か条を作成して入居者様の尊厳保持・地域交流を大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時・1日3回の申し送り時に社会福祉法人共有の理念の唱和を行い実践している。また、グループホーム内で独自の介護10か条を申し送り時に確認している。ケアカンファレンス時に取り組みの評価をしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族様には契約時に理念を説明しており、家族会時にもお知らせしている。また、玄関にも掲示している。季刊誌にも表示している。運営推進会議時にも理念について話している。パンフレット・ホームページにも記載している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	散歩に来られた方や隣接した介護予防支援センターに来所される方に挨拶を交わして声をかけ合っている。放生会に出かけている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校・保育園との交流会を設けている。行事等に地域のボランティアの方に参加して頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の介護者教室やキャラバンメイトに講師として参加し認知症についての話をしたりしている。今後は介護技術の講師も予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価前は自己評価を各自で行い評価後は職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて月例報告や外部評価結果を報告し運営や介護の質の向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回管理者が市に訪れグループホームの利用状況を報告している。空き状況などの報告も行っている。市と共に質の向上に取り組んでいる。又、キャラバンメイト講師の依頼を受けたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度、地域権利擁護事業の勉強会を行っている。また、その資料を事業所に置きいつでも見ることが出来る様にしている。新規入居者様には権利擁護のパンフレットをお渡ししている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を実施している。資料を事業所に置きいつでも見ることが出来る様にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分説明し納得の上で契約を結んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ゆっくり話が出来る時間を設けており、常に、意見に耳を傾けている。3:1より手厚い人員配置とし、入居者様と会話する時間を多く取れるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真入の利用者様の御様子を請求書と一緒に送付している。また、面会時にも毎日のご様子を報告している。職員配置は玄関に掲示している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情受付の説明を行っている。また、面会簿のところに意見箱の設置や、家族会時に意見交換を行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務ミーティングにて意見、提案を聞いて検討している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	臨機応変に職員配置の調整を実施している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけ離職者がでないようにスタッフ間の輪を大切にしている。また、離職者が出た場合には不安を与えない雰囲気や声かけを行っている。異動前には事前に交流し顔を覚えて頂きスムーズに移動できる様にしている。家族会にて異動の旨伝えている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の性別、年齢で対象から排除されない。各職員には業務の担当をもってもらい能力が発揮できるようにしている。職員の状況に合わせて柔軟に勤務体制を考慮している。		
20 ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	管理者、職員の話し合いで決めた介護10か条を掲示し、また会議の際取り組んだ10か条の項目を評価している。。職員が入職した際のオリエンテーションで人権についての話をしている。		
21 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会や法人内外の研修に参加することで知識、技術の向上に努めている。		
22 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し勉強会に参加している。古賀市でグループホームネットワークを立ち上げ同業者の見学を受け入れたり勉強会に参加している。		
23 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人で悩みを抱え込まないように業務ミーティングや話し合い等意見交換をしている。また、納涼会や忘年会などを実施しストレス軽減に役立てている。能力開発カードを元に年に3回話し合いの機会を持っている。		
24 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力開発カードを作成し、目標に向けてスタッフが向上心を持って働けるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にお会いして本人とお話することで関係を作っている。話を良く聞き受容するように心がけている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行い御家族の話を良く聞き、受容するように努めている。不安なことがあったらいつでも相談してくださいと声をかけている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、よく話を伺い、情報を集め必要とされているサービスを見極めるようにしている。他サービス事業所間との連携もとっている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には御家族、御本人様に見て、雰囲気を知っていただき入居して頂くようにしている。遊びに来てもらったり、お茶の時間にお誘いしたりと御家族と相談しながら行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に人生の先輩という気持ちで接し、人生経験の中でのアドバイスなどを受けており、支えあって生活している。また、新聞・テレビなどを見ながら一緒に笑ったり怒ったりしている。食事作り・ボランティア等の参加によって入居者様・スタッフのコミュニケーションや生活の場が出来ている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様への取り組みをお伝えし御家族様にも協力いただいている。行事等の際は一緒に出し物に参加して頂く等協力いただいている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの生活歴の把握に努め、また、今の入居者様の様子を伝えることによりより良い関係が築いていける様に支援している。御家族様にも自由に過ごしていただけるよう努めている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出されたり、お友達が会いに来られたりしている。本人様の自宅に帰られ近隣を訪問されたりしている。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングで話をされる時間が多く、よく会話がはずんでいる。入居者様同士の関係にも十分配慮しておりスタッフが間に入って関わりあうようにしている。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、ご家族より相談があれば真摯に対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や、現在の暮らしの希望を御本人に尋ねたり、表情や言葉から把握に努め検討している。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様に記入、もしくはお話いただいた情報や、御本人様との言葉の端々から把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	独自のアセスメントやスタッフ間の情報交換や日々の申し送り等で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施している。ケアプランは入居者様、御家族様とスタッフで話し合いながら作成している。入居者様の状態変化の際は担当者会議を実施している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施している。毎月モニタリングを行い実施状況や利用者様の状態の話し合いを行い、適宜変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子やケアの実践、気づきを個別記録に記入し、情報を共有し変化が生じた時は介護計画見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関により訪問診療、訪問歯科診療をうけている。法人内の看護師・作業療法士・言語聴覚士とも連携している。御本人、御家族様と話し合いながら要望に応じ支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防と協力し防災時、救急時の対応を検討している。また、民生委員の方より地域の公民館活動への参加(見学)を行っている。青柳小学校とのふれあい活動を行っている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人内外にサービス事業所があり連携をとっている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	キャラバンメイトの講師依頼を受け認知症についてお話した。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力医療機関よりグループホームに訪問し診療を行っている。24時間連絡・相談体制がとれている。希望があれば入居前のかかりつけ医に受診をしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	御家族様やかかりつけ医や専門医と連携をとり相談しながら対応している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しており常時、日常の健康管理、服薬管理を行い医療活用の支援に努めている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	週に1回の見舞い時は医師や病棟看護師より情報を得て病院との連携を取り早期退院に繋がる様協議している。退院前には病院にてカンファレンスを実施し安心して退院できるように支援している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関や御家族様とグループホームで話し合いの機会を持ち支援の指針を検討している。カンファレンスの中でも意見交換し入居者様にとっての終末期の支援のあり方を検討している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師とは24時間いつでも連絡できる体制が整っている。週一回の訪問診療により状態を把握していただいている。スタッフ同士でも意見交換し状態に応じて対応している。また、御家族様と相談しながら支援している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の居所に移る場合は、情報を交換しながらできるだけこれまでの生活が継続できるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルがありプライバシーを尊重している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の言動を受け止め支援している。本人の希望にあった支援を行っている。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や嗜好も御本人様のリズムに合わせて食べて頂いている。1日の過ごし方も一人ひとりのペースで過ごされている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事や外出の際は化粧されたりマニキュアを塗ったりとおしゃれが出来る様に支援している。入居者様のご希望の服を着て頂ける様支援している。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食室へスタッフと一緒に食事を取りに行くのが楽しみになっている。食事の盛り付けや配膳、食器拭きは入居者様主体でスタッフと一緒にやっている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お一人ずつの嗜好を把握している。食事時に漬物、梅干、塩辛等召し上がられている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全ての入居者様に対してトイレでの排泄を試みている。ケアカンファレンスの中でも排泄に関しての検討をしている。おむつについても検討を行ない、よりよいものを提案しようとしている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様に合わせて希望があればいつでも入浴できる。季節毎に菖蒲湯、柚子湯等実施している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は一緒にお話したり、寄り添ったり、飲み物を提供している。昼間に活動(散歩・レクリエーション等)の機会を作り出かけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や嗜好等把握してガーデニングや買い物に出かけられたり洗濯物干し・たたみや掃除、おやつ作り等役割を持って生活して頂いている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様で所持されている方がいる。また月に2回移動売店があり買い物をされている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に合わせて散歩等の外出を支援している。毎月行事でドライブに行ったり買い物に行ったりしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事予定を御家族様にもお知らせしている。行事等で機会を作り出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話をつけている方もいる。また電話の希望があれば対応している。御家族様と手紙のやり取りをしている方もいる。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けず自由に来て頂いている。グループホームに交流室があり入居者様や御家族様、地域の方、友人の方もくつろげるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルが有り、全職員に読んでもらい理解している。ケアカンファレンスの中でも意見交換している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方から早朝まで施錠しているが、日中は開放しており入居者様、面会者が気軽に出入りできるようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にセンサーを設置し入居者様の出入りを把握できるようにしている。職員が連携し安全に過ごす事が出来るよう配慮している。ひやりはつとの検討も行い再発防止に努めている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なものに関しては、入居者様の状態に応じ保管、管理している。ヒヤリハットの検討をし危険を防ぐようにしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成しスタッフへの周知を図っている。また、事故に対する勉強会を実施しており防止に努めている。毎月、ヒヤリハットの検討を行い再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルが有り急変時に対応できるように勉強会を実施している。救急救命講習を毎年実施し、心肺蘇生法などの訓練を行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災機器の取扱い、防災に関しての心構え等入居者様スタッフと話し合っている。防災マニュアルがあり、定期的に訓練を行っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒の可能性があることについては入居前に話している。ヒヤリハットについてもご家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化時や異変時は業務日誌の申し送り欄に記載し、申し送り時には口頭でも申し送っている。看護師にも対応を相談し医師との連携をとっている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に服薬一覧があり、服薬の状況を把握している。変更があった場合は業務日誌の申し送り欄に記載している。薬の在庫のところにもメモを張り変更の確認に努めている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつに乳製品やかんてんを取り入れるよう心がけている。また、散歩、運動(体操、パワーリハビリ)など体を動かしていただいたり、入浴時腹部マッサージをしている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけや支援を行い清潔を心掛けている。必要に応じて歯科医師、言語聴覚士にも関わっていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人毎に食事量、水分量のチェック表を用いて把握している。水分がとりにくい方にはゼリーにしたり、味をつけたりしてとっていただいている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、手洗い、うがいを励行している。看護師からの具体的な指導もある。また、インフルエンザの予防接種も行っている。感染予防健診を法人内病院にて実施してもらっている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルにそって調理用具の衛生管理に努めている。ふきんは使用後消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには植木や花を植え、表札も木で作成している。玄関も居蔵作りで木を多く使っており親しみやすい雰囲気になっている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色の工夫をしたり、カーテンや障子で日差しの調整を行っている。季節感が出るように、季節の花を飾ったり、入居者様と作成した作品を飾ったり、コタツを出したりしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、畳敷きの腰掛けや木製イスがあり、自由に過ごす事が出来る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたベッドやたんす、装飾品を持って来て頂き、なじみのある部屋として過ごしていただいている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	生ごみや汚物処理はこまめに行い、また、必要に応じて酢水や重曹などを使い消臭し嫌なにおいがしないように心掛けている。換気もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室など必要な場所には手摺りの設置をし、洗面所も高さの工夫を行っている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングにはわかりやすいように手作りのカレンダーを置いている。また、居室入口やグループホーム内になじみのものを置いたりしている。		
89	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者様と一緒に洗濯物や布団を干している。また、花を植えて入居者様とスタッフで水やり等実施している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

法人の理念や介護基本10か条を元に入居者様が自分の家のように能力を発揮してゆっくりとした生活を送られる様に取り組んでいます。グループホームの周りが自然に囲まれており飲み物やおやつを持って散歩に出かけています。家庭的で暖かみのあるグループホームです。